

出雲地区

保護司会 だより

第44号

目次

巻頭言(出雲市社会福祉協議会会長)...	1
社会を明るくする運動標語...	2
作文コンテスト	4
啓発講演会聴講記	6
初めての接見	7
県外視察研修に参加して ...	8
更生保護功労受彰者	8
保護司の異動	8

ともに頑張りました



出雲市社会福祉協議会

会長 金築 真志

出雲地区保護司会の皆様には、平素より市社協の活動にご理解とご協力を頂いており、厚く感謝を申し上げます。また、安全・安心な地域社会づくりに日々尽力されていることに対して、心から敬意を表します。

さて、私は、保護司会の活動と市社協の活動はよく似ているところがあると常々思っています。もちろん活動の根拠となる法律が異なるとか国の所轄官庁が違ふといった点はありませんが、現場の動きで言えば「人」や「地域」を対象にしていることは全く同じです。また、対象の方との関わりにおいても、両者ともその人に寄り添い、自らの力で自立(自律)して生活できるよう伴走する、背中を押す...といった支援を行います。

さらには、誰もが暮らしやすい地域になるよう、住民同士が互いに支えあい助けあう社会環境づくりに取り組んでいる点も共通するのではないのでしょうか。

近年は住民同士の関係が希薄になり、お互いの生活スタイルを受け入れない、他者に対して不寛容な社会になったと言われます。こういった風潮に対抗するには、地域に暮らす方々が互いに知る機会を作ること、そして多様な暮らし方があると認め合うこと、すなわち私たちの活動を地道に継続して多くの方に知ってもらうことが大変重要だと考えています。その意味で、保護司会と市社協が一緒になって取組めることもまだまだあると思います。ともに頑張りますよー！



やすらぎの居場所

令和7年度 第75回“社会を明るくする運動”

標語及び作文の入賞作品

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部(出雲市青少年育成市民会議との共催)として募集しました。一般の部は175点、小学生の部は589点、中学生の部は14点の応募がありました。

また、第75回“社会を明るくする運動”島根県推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から82点、中学生から20点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり入賞作品を決定しました。
たくさんの応募をありがとうございました。

一般の部

最優秀賞

立ち直る 決意の一步に
広がる支援

渡橋町 土江 清美

優秀賞

立ち直る
君を見守る 支える地域

芦渡町 石橋 厚

困りごと

一人で悩まず 先ず相談

高松町 加藤 幸江

寄り添って

そっと見守る 立ち直り

大社町 前島 一美

居場所はある

必ずあるよ 身近にね

乙立町 安喰 幸江

すくわれた

君の笑顔と 一言に

湖陵町 春日ノブ子

佳作

思いやる
心がつなぐ 地域の輪

乙立町 今岡 光治

「えすこだよ」ほめる言葉で
立ち直る

大社町 花田 晶子

立ち直る 勇気が出てくる
まわりの笑顔

斐川町 錦織 芳美

こどもたち よく見てます
大人の背中

斐川町 内田由紀子

ひとづくり まずやりましょう
ほめること

大社町 田中由紀子

子供の未来
明るく灯す 地域の輪

大社町 錦織かなえ

見守る目

寄り添う心が 救う未来

萩野町 山田 雅子

あいさつを交わす笑顔で
つながる輪

灘分町 妹尾ゆかり

気をつけて

凶器になるかも その言葉

佐田町 和田 智美

助け合う
強い絆で 明るい社会

日下町 倉橋 宏子

小学生の部

最優秀賞



立ち直る

人を信じて 支えたい

荒木小 六年 前廣 蓮

優秀賞

争いを

無くす為には まず理解

四絡小 六年 阿郷 百花

ありがとう

ちゃんとことばで つたえよう

長浜小 二年 川島 早恵

佳作

やさしさと

小さな勇気で 助けよう

湖陵小 五年 原 秀斗

さがそうよ

自分と友の いいところ

大津小 六年 須田 碧

みんながだいじ

じぶんも だいじ

今市小 三年 渡部 匠

いじわるは

友だちへるよ やめようよ

出東小 三年 中尾 けいと

気もちはね

見えないけれど つたわるよ

莊原小 二年 足立 圭悟

その言葉

なぐってなくても ぼう力だ

大津小 五年 森 実咲

あいさつで

目が合う 声合う 心合う

荒木小 五年 笹野井 久詩

たいせつに

一人一人が 生きている

今市小 四年 細川 夏帆

ありがとう

その一言で あたたかい

荒木小 四年 山崎 友里

いいあおう

しっぱいしても だいじょうぶ

中部小 一年 永井 輝怜

中学生の部

最優秀賞



「それはダメ」

見て見ぬふりせず 言える勇氣

向陽中 二年 堀内 陽菜希

優秀賞

多様性

認める心で 住み良い社会

斐川西中 三年 杉原 尚磨

「どうしたの？」

誰かを救う 魔法の言葉

斐川西中 三年 陰山 結衣

佳作

犯罪者？

過去は過去 今を見る

第三中 一年 蝶野 天音

見つけ出す

あなたと私の いいところ

斐川西中 三年 石橋 凜

考えよう

言葉のチカラ 伝える気持ち

斐川西中 三年 影山 美翔

差別断つ

違いを超えて 広がる輪

斐川西中 三年 南場 未来

えがお咲く

思いやりから 広がって

斐川西中 三年 後藤 葵

その行為

見ている君は どう思う？

向陽中 一年 佐田尾 翔太

ありがとう

伝えるたびに 広がる友情

斐川西中 三年 矢田 優彩

いじめより

よりそう心 人育つ

斐川西中 三年 尾原 奏音

いじめのない

世界つくるの わたしたち

斐川西中 三年 三原 碧斗

着実に

磨けているよ 豊かな感性

斐川西中 三年 古澤 篤拓



「社会を明るくする運動」

作文コンテスト優秀作品

小学生の部

「居場所」をつくる

出雲市立多伎小学校 六年 持田

幸哉



ぼくは、この作文を書くことになって初めて「社会を明るくする」ということについて考えました。自分が住む町のことは大好きです。けれど、地域を良くするための活動については、あまり知りませんでした。

そこでまず、「明るい社会」とはどんな社会なのか考えてみることにしました。そして思いついたのが「犯罪がない社会」「地域の交流がある社会」です。けれど、このような社会を作るために何をすればいいのか、ぼくに出来ることはあるのか、良い考えが浮かびません。特に「犯罪」については難しいと思いました。犯罪は、それを起こす人の心情の問題…。その人が変わらなないと犯罪はなくならないと思ったからです。

考えていると、お母さんが、あの動画を見せてくれました。法務省が出している「犯罪や非行からの立ち直り」立ち直った方からのメッセージ」という動画です。犯罪を犯した人でも、社会で活躍

できる事が分かりました。そのお手伝いをしているのが、自助グループや更生保護施設の人たち、協力ご用主、保護司の人たちです。犯罪をおかした人に正面から向き合おうとする強い気持ちが伝わってきました。

共通しているのは、犯罪をおかした人に「場所」を与えているということです。それがぼくはとても大事だと思いました。動画に出てきた人たちも、昔は「居場所」がなかったと感じたからです。いっしょに悪いことをする仲間はいたけれど、本当はさみしかった、こ独だったと思います。ぼくも、悪いことをすることが時々あります。けれど家族はゆるしてくれれます。いけなかったことを具体的に注意してくれれます。ぼくには安心できる「心の居場所」があるということです。犯罪をおかした人を支える人たちも、こうした「心の居場所」を作っていると思います。それが次の犯罪を生み出さない事につな

がっていると感じました。「反省」は一人でも出来るけど「更生」は、みんなの力がないと出来ない。という言葉が一番心に残っています。次に「地域の交流がある社会」について考えます。実はこれも「心の居場所」ということに関係していると思います。ぼくの住む島根県出雲市多伎町には、日本海をながめることが出来る「道の駅キララ多伎」があります。そこで行われる地いきの祭りは、ぼくにこの町での「居場所」を感じさせてくれます。屋台がたくさん並び、ちゅう選会も大盛り上がりです。夜には花火が打ち上げられ、とてもきれいです。けれど、たくさんの方の力が必要だと思いました。そこで今年は、祭りに関わっておられる人を見つけて、お話を聞いてみようと思いました。

ぼくは祭りを楽しみながら、花火を打上げる人、ちゅう選会の景品を準備する人、屋台を出している人、ステージを盛り上げている人：色々な人が働いておられることに気付きました。そして中でも気になったのが本部テントにおられた人です。みな同じ上着をはおっておられます。そこには多伎町のコミュニティセンター長もおられました。その時は忙しそうだったのですが、後日、電話でお願いをして祭りにしてお話を聞かせてもらうことにしました。本当はともドキドキしていました。けれど「多伎町を明るくする」ということを出して行きました。

センター長は笑顔でむかえて下さいました。まずは祭りの目的を教えてくださいました。「地域住民の交流の場になるように」というお話を聞いてコミュニティセンターも、町の中に「居場所」を作っている大事な施設なんだと感じました。次に祭りのための準備について聞きました。費用集め、協力者集め、衛生管理、物品準備など、やはりたくさんありました。みなさん大変だったと思います。けれどセンター長さんは続けて、こうおっしゃいました。

「地域の人の力が大きかったんだよ。」ボランティアとして祭りのお手伝いをする方、お祭りの運営を寄付する方がたくさんおられたんだそうです。お金をもらうことを目的にせず、地域の人たちへの思いで行動する人がいてこそ、地域が明るくなるんだと思いました。ぼくの「居場所」もこうして出来ているのです。

ルールを守らない友だちを見ると、ぼくは迷惑だなと思っていました。けれどこれからは、その人が、なぜそんなことをするのか、どうしたら止められるのか、そして、その気持ちによりそって、やめられるよう話してみようと思います。また地域交流の場を作るためにボランティアに参加したいです。祭りの時だけでなく、多伎町がいつも元気で、みんなの「居場所」になるように、ゴミ拾いや海岸清掃など、自分出来ることをがんばります。

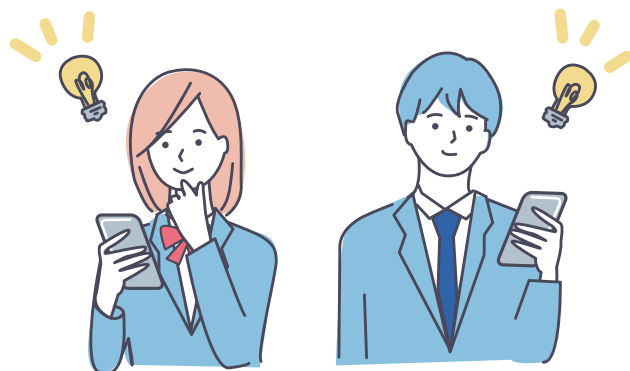


皆さんは、大切な人や好きな有名人など、この人には傷ついてほしくないという存在がいいますか。私にはたくさんいます。しかし、現在の日本、もっと広くいえば世界中には、誰かにとって傷ついてほしくない人を傷つける人がたくさんいるのが現状です。その原因の一つとしてSNSでの誹謗中傷が挙げられます。

皆さんは、大切な人や好きな有名人など、この人には傷ついてほしくないという存在がいいますか。私にはたくさんいます。しかし、現在の日本、もっと広くいえば世界中には、誰かにとって傷ついてほしくない人を傷つける人がたくさんいるのが現状です。その原因の一つとしてSNSでの誹謗中傷が挙げられます。

皆さんは、大切な人や好きな有名人など、この人には傷ついてほしくないという存在がいいますか。私にはたくさんいます。しかし、現在の日本、もっと広くいえば世界中には、誰かにとって傷ついてほしくない人を傷つける人がたくさんいるのが現状です。その原因の一つとしてSNSでの誹謗中傷が挙げられます。

皆さんは、大切な人や好きな有名人など、この人には傷ついてほしくないという存在がいいますか。私にはたくさんいます。しかし、現在の日本、もっと広くいえば世界中には、誰かにとって傷ついてほしくない人を傷つける人がたくさんいるのが現状です。その原因の一つとしてSNSでの誹謗中傷が挙げられます。





今年度は、講師に「白い船」で一躍世間に、映画監督として有名になられた地元雲州平田在住の錦織良成さんをお迎えして、何故ふるさと島根を舞台に映画を撮る事になったのか。人生は、失敗するものだよ！失敗しても必ず助けてくれる人がいるよ！というメッセージを映画を通して届けようと思ったのか…等、錦織監督作品の各映画の一部上映も見せていただきました。



監督のお人柄から醸し出されるトークは、時間を忘れるくらいあっという間の聴講でした。

まず、「先入観」について。映画のジャンルとして、邦画と洋画があるが、邦画は日本の映画作品、洋画は海外作品の映画となっている。しかし、日本国内で上映されている洋画は、殆どアメリカ映画であること。

世界の映画作品は、私達が見知っている一握りの世界観ではないこと。世界には、いろいろな国があるだけ各国の文化や価値観があるということ。正義をかざして敵を倒す…サクセスストーリーを見せられている。偏った価値観の映画を見ていることに気づいてほしい。エンタメ・娯楽映画ばかりでなく、心が震える・感情に訴える海外の

映画作品を見ていただきたい。

映画は、宣伝・観光の為ばかりではなく、映画を見に来ている観客のためのものであるべき。様々な「学びがある」ものを提供することが大切と思い、創作活動していること。そういう想いが、ふるさと島根での映像になっっている。島根の自然の景色や島根の人たちの日々の営みを映画を通して、社会に多様性があり、それぞれに個性がある地域の人達、みんななどという地域を支えている。世界には、言動の自由を保証されない国や開発途上国など様々な環境の国もある。錦織監督は、表現の自由が保証されている日本だからこそ、そういう包容力のあるふるさとだから、日本人の自分たちが、人間の心の豊かさ・相手を尊重する、



共感できる社会があることを映像作りで表現したいと思っている。映画では、失敗した人たちの疑似体験をすることもできる。何度も失敗するけど、いろいろな人達から助けを借りて成功していけるという疑似体験もできる。悩んだ時に、心の支えとしてもらう映画作りをしていきたいと、熱い思いを語ってくださいました。

今回の聴講を通して、私事として、「先入観」の話がされた時、ガツンと衝撃を受けました。いろいろな物の見方をしているつもりの方がいました。まだまだ…。錦織監督の映画を視聴してみたいなりました。ありがとうございました。

初めての接見

「島根あさひ社会復帰促進センターを訪ねて」

保護司 津戸 弘光

初めて彼（Aさんという）と会ったのは、日差しも強まってきた今年の6月に生活環境調整のため、島根あさひ社会復帰促進センターを訪れたときのことだった。

時間にゆとりをもって出かけたため、到着したのは予定よりかなり早く、結局、接見開始を15分繰り上げ、終了は当初の予定通りにしてもらうことになった。フルに時間を使えば、計画より15分長く接見でききる。

やがて、刑務官さんに導かれてAさんが入室された。

前もってBさん（身元引受人）から説明を受けていたこともあり、体格や雰囲気はほぼイメージ通り。行動や表情も落ち着いておられて、初めてお会いしたように思えなかった。

刑務官さんの落ち着いた指示のもと、軽く気を付けの姿勢で会釈をされた。

私とはという慌ててしまっ、中腰のままでは会釈を返してしまっ。なんとも中途半端で恰好悪い（と思った）。本来なら同じ対応を淡々と返せばいいのに……。こんな

ところに新米のアラが見えてくる（笑）。

でもそんなことは無かったかのような顔をして、初めましての自己紹介を簡単に済ませ、私が初めて受け持つケースであることと、接見そのものも全くの初めてであることを正直に話し、今日の予定のあらましについて説明した。

この点についてはそれぞれに思われることがあると思う。

私自身、経験が圧倒的に乏しく、この判断は賭けのような一面もあるだろう。

「Aさんの穏やかそうな対応を見て判断した」とでも書けば少しは保護司らしくみえるところかもしれない。

しかし、初めからそのようなことは考えていなかった。

（元々器用ではない自分のこと。兎に角素直に、ありのままの自分で対応しよう。それでうまくいかなかったらそれはその時考えよう。いや、そんなことさえ考えてはいなかったのかもしれない。先に淡々とという言葉を使ったが、いつの間にか一所懸命に無心で

あった。）

その日の予定のあらましとして、次のように伝えた。

① お互い音楽が共通の関心事でもあるようなので、そのあたりからおしゃべりしましょう。

② そしてこれまでの生い立ちなどについて、ざつとばらんに話してください。

③ 入所するに至った経緯については話したくないこともあるかもしれないませんが、できるだけ教えてください。

④ 復帰してからの生活の計画や希望することがあれば教えてください。

⑤ 復帰したのち、自分がギャンブルなどに近づかないために考えていることがあれば仰ってください。

これらは観察所からの要請を受けて、自分なりに構成したことであるが、言葉面はもちろんそのままではない。追加の言葉を挟んだりしながら、適時修正しながら進めていった（ように思う）。

また、私の問いに答えるだけでなく「聞かれてはいませんが、仕事について私が強みに思っていることについても話してもいいですか。」とのリクエストもAさん自身からあった。このように自ら話を振ってきたことは少し意外であったが嬉しくもあった。自分について語るAさんは言葉

に具体性があり理解しやすく思えたが、問いを発する私の方は説明がぐどくなったり意味内容が抽象的になったりすることもあったと思う。しかし、Aさんは何事にも前向きに捉え、応えてくれたのは感謝したい。

接見の時間を15分も増やしてくださった促進センターの方のご判断にも感謝したい。

あつという間の75分間であった。何度も言うが、今日が人生初めての接見だった。

きつと大したことはできていない。ただ、一つだけ、次のような思いで、出雲に帰るまでの2時間、私の胸中はいっぱいだった。

センターでAさんと過ごした1時間余り。できるだけ心を砕いて精一杯対応した。しかし、終えた今思うことは一番励まされ癒されたのは外ならぬ私だったのではないだろうかということである。

例えば6年前、思いがけず地域のリーダー的存在である方にかなり強引に誘われてこの仕事にご縁を戴いた私であったが、初めての接見を経て、このような充実感を味わうとは全く予想していなかった。

これからも苦勞に思うことや厳しい面もあるかと思うが、微力でも力を尽くし、助けを必要とする立場の人とともに、一歩一歩歩んでいきたい。

県外視察研修に参加して

高松刑務所・丸亀地区保護司会を訪問

保護司 坂本正人

出雲地区保護司会は、十月二十二日及び二十三日に保護司十二名の参加を得て視察研修を行いました。

一日目は「高松刑務所(高松市)」を訪れ、総務部長から概況説明を受けた後、施設案内をしていただきました。刑務作業では高級石材として有名な庵治石の加工や印刷作業などを見学しました。また、受刑者の居室を見せていただき、居住環境や整理整頓されている様子がわかりました。

受刑者の高齢化が進み、機能訓練の実施や福祉の専門知識を有する職員の配置等の取組みのほか、外国人受刑者の増加、本年六月に施行された拘禁刑への対応など新たな課題についてもお聴きし、

刑務所を取り巻く現状への理解を深める



研修風景 (高松刑務所)

ことができました。

二日目は「丸亀地区保護司会(丸亀市)」を訪れ、各々の活動状況の説明と意見交換を行いました。



丸亀城を背景に

意見交換では、保護司について①活動内容の理解・周知、②担い手の確保が主なテーマで、「丸亀城イエローライトアップ」や「中学校生徒弁論大会の開催」等の取組みが紹介されました。また、担い手確保では関係機関はもとより各地域コミュニティとの連携のあり方について意見が交わされました。

今回の視察研修を通じて、矯正施設の実情への理解、他地区保護司会との交流、保護司同士の親睦を図ることができ、今後の保護司会及び保護司の活動の充実、発展につなげていきたいと思っています。

こもれび

昨年の秋、東広島市にある貴船原女子少女苑を研修訪問した。勿論、入所者のみなさんには面会はない。廊下には、女子らしい手芸品などが展示してあった。また、入所しているみなさんの作文が掲示してあった。ひとつずつ目を通していくと、「isset」という題名に目が留まった。「妹と弟から、姉ちゃん早く帰って来て、待ってるよ。という手紙を受けとった、こんな姉でも妹と弟は待っててくれるんだ、うれしかった。」と、短い作文ではあったが、涙が出そうになった。待ち受けてくれる家族と見守ってくれる社会環境があれば、再犯も防げると思った。

(三島貴栄子)

更生保護功勞受彰者

法務大臣表彰

鈴木二朗 長子明久

全国保護司連盟理事長表彰

景山大園

中国地方更生保護委員会委員長表彰

藤原恵美子 堀内時雄

水 教一 井上安弘

勝部 篤

中国地方保護司連盟会長表彰

稲田昌史 高見睦哉

花原良治 山田信之

松江保護観察所長表彰

尾添 隆 藤井哲眞

赤井賢照 坂本正人

宮岡 泉 山崎寧子

横田直己 米田曉雄

島根県保護司会連合会会長表彰

川光秀昭 木次順子

飛田憲彦

保護司の異動

◎退任

堀内時雄 (以上平田)

勝部 篤 神門保雄

(以上斐川)

◎新任

椿百合子 三代達明

(以上出雲)

三加茂圭祐 (以上斐川)

前島虎次郎 (以上大社)

◎再任

石飛博雄 木次順子

高見睦哉 花原良治

藤原恵美子 布野直美

山岡 尚 山田信之

(以上出雲)

吾郷宏光 (以上平田)

稲田昌史 (以上斐川)

中尾 亮 水 教一

(以上河南)

勝島徹正 川光秀昭

津戸弘光 和田晶隆

(以上大社)

(令和七年十二月一日付)